成人看護学

構築の考え方とねらい

成人看護学で対象となる成人とは、身体的に成長を遂げ、社会的にも独立し、主体的に自分の行動様式や生活習慣を確立している存在である。一方で、就職、結婚などといった人生の重大な選択にともなう環境の変化に適応し、自らの心身の健康を維持しながら、社会人としての責任と役割を果たすことが要求される。この時期は「成人期」とされ人生の中で最も長い期間に当たる。

成人期は社会的に担う役割や人間関係は複雑、多様で、社会的出来事やそれに関連した健康問題も個人差が大きい。しかし、健康問題を抱えていたとしても、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて自分らしく生きていくかを考え、実践していく力を持っている。そのため、成人期にある人の思い、社会的役割や立場、生活背景を捉えた上で、対象の健康問題をアセスメントし、必要な看護を実践していくことが求められる。

成人期にある人々を総合的に理解し、各々が役割を持って社会生活を営むために、健康の維持・増進・疾病予防、疾病からの回復と QOL の向上に向けて、各健康レベルにある成人とその家族を援助するための理論と方法を理解する。成人期を生きる人々の持つ、確立した価値観や生活習慣、セルフケア能力を強みとして捉え、自立・自律した存在であることを理解してもらいたい。

成人看護学は、「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」「成人看護学方法論Ⅲ」「成人看護学方法論Ⅳ」「セルフケア支援実習」「はたらく大人の健康支援実習」「周手術期実習」から構成される。